

「辞書を置かない考える英語教室 教本」

It`s a English

Our side language English

II



物書き

うときゅういっき



「辞書を置かない考える英語教室 教本」

It`s a English

Our side language English

II

Alive English textbook

うときゅういっき

目次

●本旨要約

●教本本編（文章構成篇）

- ・ One of our side answers
- ・ No need long. Short one OK
- ・ I have a question. May I ask you? 質問ばあ、ありよるバッテンが
さい。訊いてえん、よかと？

・ Hungry? Angry?

・ Anyway, the word “hungry” PART 1

・ Anyway, the word ”hungry” PART 2

・ Angry or anger samples

・ Tired and tired, your car`s tire is fine?

・ The way of sentence construction PART 1

・ The way of sentence construction PART 2

・ The way of sentence construction PART 3

●教本 参考付録「前座の英語第 9 集」

●結語

(本旨要約)

●英語学習の目的を「受験」から「コミュニケーション」に変えるだけで英語はとても分かりやすく身近になり、話せるようになります。

●元々語学（言葉）はコミュニケーション手段の一つでした。
言葉がコミュニケーション手段の一つだという認識に代われば、他にもコミュニケーション手段というものがある事に気づきます。
今まで隠されていた世界があったことに気づかされます。

●例えばジェスチャーや表情、イラスト、図、数字、ハグなどの方法もあったことを。

●語学学習の目的が「受験」ではなく「円滑なコミュニケーション」であれば、語学とそれらを組み合わせた方法もある。
語学がまだ下手ならそれらでカバーすればいい。場つなぎすればいい。

●それを「受験英語」だけが「英語だ」という誤認識が覆い隠してしまっていたのです。

その誤認識が数多あるコミュニケーション手段を覆い隠してしまい目が語学だけにしか行かなくなってしまったのです。

●しかもその英語は「ふるい落としの為の間違い探し英語」なのです。最高でも「欠点0」でしかない「息苦しいようなもの」なのです。

●本来日本語より遥かに簡単な英語を「難しい日本語」より更に難しくしてしまったのです。

進んでいる方向が全く逆なのです。難しい方ではなく踵を返して「簡単な方向」に進まなくてはいけないのに。

●これではいつまでたっても「答え」は見つかりっこありません。だって全く反対の方向に進んでいるので、どんどん「答え」から遠ざかるばかりですから。

●かてて加えて、この受験英語は英語を争いの道具に変えてしまったのです。本来仲良くなる相手を「敵」にかえてしまったのです。

●敵との争いに勝つために常に欠点0を意識する語学。楽しいはずがありません。

体育館はとても広いのに、其れに全く目をやらず、その端っこの平均台の上を後ろからナイフを突きつけられながら「落ちないようにおっかなびっくりあるいている」様なものです。

「間違っちゃいけない。間違えてはいけない。一つでも間違えると受験に落ちる。二度と浮かび上がれない。人生が終わってしまう」というナイフを背後から。

●私たちは広い体育館の中にいる事に気づきましょう。

平均台から落ちたって大丈夫です。体育館は広くいくらでも走り回れますから。

●しかもその体育館も広い校庭の中のそのまた端っこにある事に気づきましょう。

●そして学校も広い世の中の片隅にしかないことに気づくと、
「失敗してもいいんだ。失点なんてそもそもないんだ」という、解き放たれた明るい気分になれてリラックスでき、英語がとても身近に感じられて分かりやすく話しくなります。

●しかも英語というのは極言すれば「辞書の余りいらぬ言語」なのです。自分でどんどん思いついて作り出せる言語なのです。
それに気が付くと世界がもっと広がります。

●「この英語で大丈夫ですか？ミスはありませんか？」などと「権威」にいちいちお伺いを立てる必要の余りない言語です。

自分の事（英語）は自分で決められる「殺生与奪の権」が権威にではなく自分の側に持つことができる言語なのです。

それで本書の題名を Our side language English と題しているところも無きにしも非ず、です。

●そういう意味では英語の方が日本語より遥かに自由でフレキシブルな言語です。

反対に言えば「だから外国人さんは日本語学習で大変な苦戦を強いられている」とも言えるのです。

以上が英語も日本語もあまりよくわからない外国人と5年間仕事をしてきた自分の実感で御座います。

●最終目的は表現上手なコミュニケーション上手

●本書ではそれに至る具体的な転換方法を記してみました。

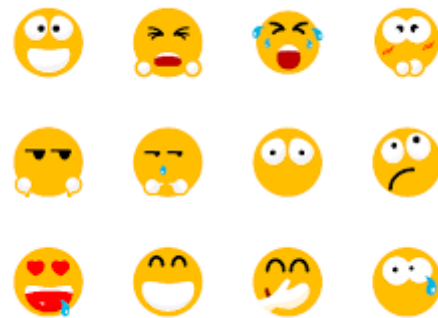
お試しくださいます。

(教本本編：文章構成篇)

2022/6/29

(It`s a English. Our side language English II)

One of our side answers



「Well being な働き方」

「Sustainable な経営」

既にありふれた語になった言葉としては

「DX(Digital transformation)」

等がメディアのそこかしこに出ておりました。

最初見た時、咄嗟には何の事だか分らず思わず考え込んでしまいました。

特に今最もありふれた語になっている DX は、ウィキペディアで調べる迄見当もつきませんでした。

ですが、今回お話ししたいのは、嘗て一時さんざんパラ言われた、忘れ去られていたゾンビの復活劇の様な「メディアにおける横文字の氾濫はけしからん」というストーリーではありません。

因みに冒頭の三つを和訳すれば、上から順に

「日々良好な状態での（になれる）働き方」

「持続可能な経営」

「デジタルを介した今迄の様態や容態そのものも変える様なレベルの大変革」

という事になりましょうか。

それで、此処からが本題です。

自分が上述のキャッチコピーをみて感じた事を3つ書きます。

一つは、よくまあ一般が知らない様な英単語を知っているものだ。どこから見つけてきたんだろう？

そして今一つは、我が国のインテリは結構難しい単語をたくさん知っているのに何故英語

で話したり書いたりはできないのだろう？

そして三つめは、こう迄英単語が頻出するのは「此处迄多く知っているのに文章にならない歯痒さとその裏返しに単語が難なく繋がって文章になったものを自在に話したり書いたりしたい願望の現れなのではないか？」

そこで思いついたのが

「だったら「今後の」It's a English. Our side language English は「今迄の」英単語の紐解きではなくて、中学卒業レベルの知識があれば誰でも簡単に手が出せる「英文（英語の文章）のつくり方（話し方、書き方）、つまり単語ではなく文章（の組み立て方）に重きを置いた読本」にした方がより有用なのではなかろうか？

という事でした。

point は

- ① 間違っても全然構わない。
- ② 知っている単語と構文を使うだけでいい
- ③ ジャストな言葉じゃなくても、組み合わせや同じ印象や効果、連想を相手から引き出す自分が言いやすく相手にもう通じる別な表現をどんどん使ってみる。
全ては実験、物は試しだと割り切ってまずは口にしてみる。
- ④ その為には言葉一語一語に対して成る丈印象や感想を持つ様にする。記憶から引き出し易い様に。
- ⑤ こういう場合は「自分だったら」英語でどう表現するかを常日頃から考え、暇さえあればイメージトレーニングをし続ける。
- ⑥ その時話しかける或いは書いて伝えたい相手とその場面を想定（想像、念頭におく等）する。
- ⑦ 辞書は街にある看板や標識を使い、敢えて成る丈手元の手引用辞書を使わずに済ます（自分の発想を重んじる）
- ⑧ 殺生与奪の権を自分側に取戻す為に、受験や就職の事は一旦忘れる。
- ⑨ 英語はスポーツ。練習（失敗の上重ね）しないと上達しない。
- ⑩ 思い切って表情や動作を豊かにしてみる。この世の恥は掻き捨て。人生一度きりだし。
等

準備に少し時間がかかりますが次回自分はその教本作りにトライしてみようかと思っております。

2022/6/30

(It`s a English. Our side language English II)

No need long. Short one OK



話すにしろ書くにしろ知っている単語をてんでばらばらのままではなく

「上手く繋げられないか？」

せっかく単語をたくさん知っているのだから

「宝の持ち腐れで終わらせるのは勿体ない!!」

何とか「文章にして」話す事が出来ないか？書くことが出来ないか？とみんな思っているのではなかろうか？

というのが前回の仮説でした。

「ええ？英語の文章なんてできないよ、そんなの」

「間違っても全然構わないなんて言われたって、間違うの、嫌だし、そんな度胸ないし」
確かに。

しかし、文章というのはたった一語から文章です。長いだけが文章というわけではないので、長文はきれいさっぱり忘れて、最短は一語から、まずは短文の繋ぎ合わせだけをイメージしてはどうでしょう？

次に「間違えるのが嫌なら、間違えなければいい」訳です。

再び「まずは」是だけは知っているという単語だけを使ってはどうでしょう？

そして話題は全世界共通のものを選んで

例えば

I`m very hungry (すごくお腹空いた)

とか

I`m very tired (すごく疲れた)

とか。

或いは Why(なんで)? What (なに)? How (どうやって)? Where (is it) (どこで、よ)?
When (いつう)? Who (誰があ)? Which (どっちなあねん)?

等の所謂 5+1W1H で始めてみるとか。

一言で言ううちいちな子供が大人に訴えかけたり尋ねたりする内容です。非常に初歩的
だけれど、とても奥が深いような内容です。

そして話すときに大切なのは「やり取り」「キャッチボール」「リアクション」「相槌」です。
相手に興味を持っていることを示す事です。

Wow!! (おお)

Really? (ほんまにあったン?)

Is it true? (ほんま? 正しいの?)

Oh my god!! (あらら)

Yes, yes(ホイ、ホイ)

And then (ンで、それから)?

等です。

どれも大体 3 語以内でしょう?

それで最後には、表情と多少のオーバーリアクションをくつつければ大体 ok です。

(われわれ日本人には案外是が一番難しい技かもしれませんが)

後はその中身を少しずつ詳しく、或いは具体的に説明できるように短文をつぎはぎしてい
けばいいのです。

まず、いきなりの長文作成は諦めましょう。

大抵の場合全くの無駄で、ほぼ 100% 確実に失敗しますから。

ですが、話しかけるのはそれでいいとしても、そもそも相手の言っていることが分からない
(ヒアリング能力がない)とおっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、外国人はもの
すごく親切です。相手が喋り始めてわからなければ素直に

What does it mean? (What`s the meaning?) どない、意味やあねん?

Explain to me, slowly please わかるように説明してやあ、ゆっくり頼むでえ。

と可愛く甘えればいいのです。ものすごく一生懸命教えてくれます。上手く伝わらないとあ
の手この手で伝えようとしてくれます。

我が国の諺で申せば「案ずるより産むがやすし」である場合が大抵です。

「心配ご無用。当たって砕けろ」

です。

なまじ分かった風やかっこをつけるのが一番いけません。自分も嫌になりますし、そもそも
相手がウンザリして逃げてしまいますから (I'll excuse from it)

2022/7/1

(It`s a English. Our side language English II)

I have a question. May I ask you? 質問ばあ、ありよ
るバッテンがさい。訊いてえん、よかと？



How many is the number of all members?

(メンバーは全部で何人なの?)

今日たまたま偶然にそんな質問をして「んっ?」と思ってしまいました。

「んっ?」の理由は

Number

と

Member

Ber は同じで Num と Men が違うだけ。

そういえば今使っているパソコンのキーボードの Num lock は「文字キーを数字キーとして使用する」に固定の意味。

だから number は数に関わっているのだろう。

それでは member は？

Men が付いているのだから男に関わる事？

再び「そういえば」の話、英語の元になったといわれているらしい古代ケルト語では men(man)は男ではなく人を表していたという記事をだいぶ前に読んだ記憶があったので、それが正しいとすれば men は人。

で、number of member は「人の数」という事になる訳？

それでは ber は何かと言えば、前後から推測するに、例えば「レベル」の意味合いなのかも。

だとすれば正確には

「全部の人の数のレベルはどのくらいなの？」

という事？

話は変わって昨日の記事に出てきた

I'm very hungry!!

の hungry もこの伝で行けば overhang の hang「ぶら下がる」の過去分詞（形容詞形）で hung つまり「ぶら下げられて」いる"ry"「状態のもの」と言えそうです。

意識すれば「胃袋が空っぽで、胃袋の存在が体の中で殊更に吊るされている（ぶら下げられている）ように感じられる」状態とか、或いは「空きっ腹で仕方がない時に、目の前に食べ物ぶら下げられてお腹がグーグーになっている」感じだとか。

話を本題に戻しましょう。

即ち「何が言いたいのか？」です。

申し上げたいのは、これも前回の記事の中の一つですが「言葉に印象や感想を持つと覚えやすく、また引き出し易くなる」という事の例として書いてみました。

もっと言うと「なぜこの言葉はこういうのか？」是も昨日の記事の中の 5+1W1H の話の中の why（なんでやあねん）？を一例として実行してみたという訳です。

こうなってくると外国人に逆質問をしてみるのも一興かもしれません。

是も是又、昨日の記事の中の「殺生与奪の権（話の主導権を自分の側に取戻す）の取戻し」に絡んで英語が専売特許の外国人から専売特許じゃない自分の側に引き戻す効果がありそうなこともあって、例えば

“Number” and “Member” is almost the same. Num and Mem is different only.

The source of these words the same? From same source? What`s the source? If you know it (=have knowledges), open source to me please.

Don`t mind, don`t mind, no problem. Hey let`s go, go, let`s (ra) go!! Further and further, so on and so on mood, Seems to, maybe.

（ナンバーとメンバーってほとんど同じでえ、ごあんどお。ナンとメンが違うだけっちゃろうが。語源が一緒なんかい？同じ語源？その語源てえ、なんかあ、ごわす？知っちゃったら、オープンソースばあ、してえたもんせえ。

苦しゅうない、苦しゅうなかあ。ドンガラがったドントどんと行きましょう、ぐうわんど
おな、感じだけやけん、がさい)

It might be a cause of his(her)panic

(結構相手は焦りまくるかもしれません)

Got a win!!(or done it!!) (inside true voice, secretly)

(やったあ〜!! (内心の密やかなる本音)

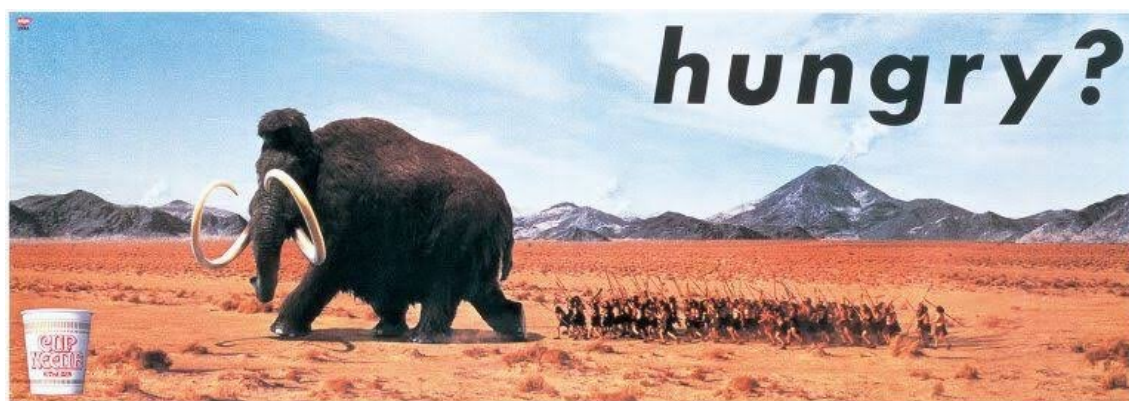
死語表現では やったぜ、ベイビー!!

てな、感じでしょうか?)

2022/7/1-2

(It`s a English. Our side language English II)

Hungry? Angry?



Hungry? Angry?

若いころカップ麺だか何だかのコマーシャルでこのフレーズを耳にした時

「こいつ、すげえ、才能!!」

とおっ魂消ました。

「腹減ってんの？怒ってんの？」

直訳はそうですが、意味としては

「腹減って、怒ってんの？」

でしょう。

一応正しく英訳すると

Are you hungry? Then getting angry?

か、「腹減って怒りっぽくなってんの？」

なら

Are you hungry? Then getting easily angry? (nearly equal, easily holding anger?)

でしょうか？

正しくはそうなのかもしれませんが、冒頭のフレーズで我が国の中学レベルの英語力さえあれば全世界どこでも通じそうな英語でしょう。

文法もへったくれもありません。お腹が空いた経験があればお金持ちだろうとそうでなかろうと、西洋人だろうと東洋人だろうと老いも若きも男女を問わず、すぐさま理解できるフレーズです。

要するに何が言いたいのかと申せば、コミュニケーションのための手段としての語学というのはこういう事なのだと思います。

語「学」等ではなく「いかに本音本心、ありのままを素直に語って相手と共有共感できるか？」を目的とした道具の内の「一つが語学なり英語と言われるもの」でしかないような。それがないままに正しいだけの語学（英語）であるなら、お互い語る方も聞く方もウンザリしてしまうだけなのではなかろうか？と。

できれば、自分もこの copy writer のような English speaker になりたいと思います。

Anyway Great, this one is!!

(それにしても、このライターはスゲェ奴だ!!)

又は、

(それにしてもこのフレーズはスゲェ代物だ!!)

追記)

最近聞いたのでは、英語ではないのですが以下のフレーズが秀逸でした。

「なあ、6月。お前今まで、そんな奴じゃなかったよな」

一応自分なりに解説しますと「これまでとは全く違った今年の6月の異常気象（異常高温）」を模したものだと解釈しております。

Hey, you!! "June"!! You haven` t been such a guy until now!! Ax?

2022/7/1-3

(It`s a English. Our side language English II)

Anyway, the word “hungry” PART 1



何回か前の自分の記事で

「知っている単語一語だけからでもいいんです。そのあとに少しずつ詳しく、具体的な中身を短文で継ぎ接ぎしていけば。何も最初から長文一発、間違いゼロなんて目指さなくていいんです。そんなのありっこないんですから」

みたいな主旨の事を書きましたが、この記事ではそれを少し実践してみましょう。

例えば記事の中でここ数回登場した英単語 hungry を使って遊んでみましょう。

何で遊ぶかというと、

「どのくらい自分の腹が減っているか？をいろんな形で表現してみる」遊びです。

まずそれをするには前提として実際に腹が減っていないくはない、とまではいかなくても実際にお腹が空いていた方が表現に幅とリアリティーが出てきますので、歩くなり走るなり、お使いに歩いて行ってくるなり肉体労働を買って出るなりして体を動かしてお腹を空かせた後で考えてみる方がいいかと思います。

(自分のようなビンボーは常日頃からそのような状態が常態なので考えるにあたって特に何もする必要がありません。わざわざ準備をしなくても即臨戦モードに突入できるところが役得と言えば役得でしょうか)

ではそのモードに突入しましょう。

手始めに我が国ではお腹が減った時の形容として

「お腹の皮と背中中の皮がくっつきそうだ」

というのがまず思い浮かびます。

他には

「胃の中が空っぽ」だとか「空きっ腹を、水を飲んでごまかす」とかあります。

最初の文言の英文章化は見るからに難しそうなのでパスでしょう。

次の例の後半、水でごまかすは、やはり「誤魔化す」という単語がすぐには浮かんできません。

となれば手始めは矢張り「胃の中が空っぽ」がこれから自分でアイデアを考え出すトリガー（きっかけ）又は比較対象のベースにするには妥当なところでしょう。

因みに「胃の中が空っぽ」は

My stomach inside is empty.

ですが、自分のお腹を指して「Zero, zero. Nothing. Empty」と言っても OK ですし、単語が全然浮かばなかったらお腹を押さえてヘナヘナとへたり込む真似をするのも有効でしょう。要するに伝える手立ては「いくらでもある」という事です。

無いのではなく「考えもしていないだけ」なのです。

だから気づきさえすれば意外とアイデアは容易くポロポロと出てくるものなんです。

次はアプローチの仕方の2 正面作戦展開です。

その一は、表現のアイデアそのものをあれこれ考えてみる（言語や表現方法は敢えて気にしない。なんでもいい）

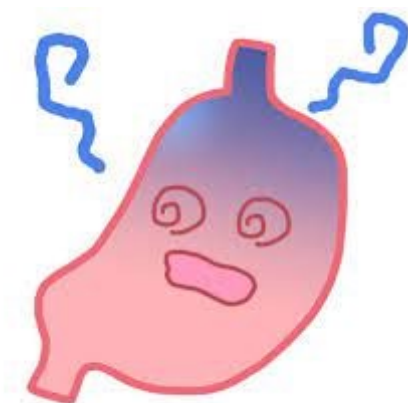
その二は、知っている英単語を元にしてアイデアを考えてみる。

では、次回それを具体的に作戦展開してみましよう、か。

2022/7/2

(It`s a English. Our side language English II)

Anyway, the word "hungry" PART 2



前回の記事では、話すにせよ書くにせよ英語の文章を作る手始めとして hungry のレベルがどのくらいかを表現する「遊び」をやってみましょうと申し上げました。

その具体策として表現の二正面作戦、即ち使用する言語や表現形式にとらわれずにどんどんアイデアを出していく第一作戦と、知っている英単語を元にアイデアを出していく第二作戦の両面構成で行くことをご提案申し上げました。

では、実際にやってみましょう。

まずは、第一作戦の hungry レベルを表現する際の「自由なアイデア出し作戦」からです。

- 目の前が真っ暗になるくらい
- 気を失いそうになるくらい
- 胃袋以外の部位は全てオマケって感じ
- 胃袋に頭や手足が付いているって感じ
- 良心？何それ？胃袋よ。胃袋、胃袋。全ては胃袋なのよ。

総じて

- 衣食足りて礼節を知る

自分の例の場合、本当に腹が減っているせいか、あまり気の利いたものが出ず、かなりえげつない表現のものばかりが出てしまいました。

では次に第二作戦の「知っている英語を元にしたアイデア出し作戦」の展開です。

- It`s a almost blackout in front of my eyes, level.
- Almost mind lost level.
- Except stomach, all my body parts is not "MUST" one, I feel.

●Head and hands legs attached stomach, I feel.

●Moral? What`s that? No need such a emblem!! Stomach, stomach, Stomach is all!! That`s over!!

●Bater from wears and foods to moral is principal, I think.

此処まで書いてみて自分で「あれっ!？」と思ってしまいました。

なんの事はない、無意識に第二作戦を、結果を想定しながら第一作戦のアイデア出しをしていたことに気づいたからです。

恐らくこれは

「気の利いた表現が見つかったらやっぱり英文にしたいよな」という願望があり「英文にできないなら第一作戦のアイデア出しやったらって意味ないよな」という心理が働いたからだと思われます。

つまり第一作戦と第二作戦は表裏一体の関係で不可分。又は交互に行ったり来たりの往来関係というのが実態の様です。

そして是は決して悪い事ではない。

何故なら、だんだん英語をやる気になってきたことから生まれる極めて自然な感情でしょうから。

追記)

無意識の英訳をしてみて、これまた感じたのは、ジャストな英単語を知らなくても日常よく見聞きする英単語、例えばブラックアウトとかマインドロス(ト)とかアタッチとかエンブレム、バーターとかで結構いろいろ表現できるもんだなあという事と、特に「胃袋に頭や手足が付いている」つまり胃袋以外不可欠ではないという意味で使った「他は MUST (マスト) ではない」の表現や「衣食足りて礼節を知る」を英訳したときに思いついた bater (バーター) などの使用は、同じ心象を相手にもたらせるなら全く違った単語(状況想起起因)を使って英訳説明しても別に問題なさそうだ、という事も今回併せて感じる事が出来ました。

2022/7/2-2

(It`s a English. Our side language English II)

Angry or anger samples



前回は hungry で「どのくらいお腹が減っているか？」をあれこれ表現してみましようというお話でしたが、今回は「Hungry? Angry?」に出てきた後半の angry を題材に使ってみようと思います。

ですが、hungry と同じ上下垂直方向のレベル差の話を angry に当てはめると、なんだか物騒な話になってしまいそうなので、今回の angry に関しては上下方向のレベル差のお話ではなく、左右水平方向のお話に振りたいと思っております。

例えば angry(anger)の種類。

と言ってもあまり難しく考えずに anger が向かう矛先を追ってみたいと思います。

例としてはその矛先が自分なのか自分以外なのか。人なのか人の行いなのか、或いは自分に影響を与えていそうな何か、なのか等です。

- 自分に対して：自分自身に腹が立つ(俺は粗大ごみだ)
- 相手の存在自体に対して：虫が好かない。生理的に合わない。
- 相手の行為や振る舞いに対して：よくああいう事するよな。言っていることとやっていること、全然ちゃうやんけ。
- 人以外で自分に影響を与えるものに対して：理不尽極まる。あまりにも不合理、余りにも不条理。一体私が何を（どんな悪いことを）したっていうの？
- 自分の損得を超えての怒り即ち義憤：それだけは許せない。論外だわ。

では英訳を

- I hold anger to myself own.(Or I count myself big scrap)
- My skin rejects him(her)meaninglessly.
- Unbelievable!! His(her)saying no match to his(her) doing. Double standard guy!!

(If the person is female, sometimes want to say to her: Guy!!)

●Exactly unfair!! No one can say this is right!!

●Got anger!! Never can accept!! Out of comment level, it is!!

ジャストな英訳ではないとは思いますが、成る丈みなさんが知っているであろう、つまり自分が辞書を引かない範囲での単語を使いました。

次回は tired です。

お疲れ様。

2022/7/2-3

(It`s a English. Our side language English II)

Tired and tired, your car`s tire is fine?



それでは今回の記事は予告通り tired。

是は我が国ではとても popular な英語で

I`m tired

と言え言わずと知れた「疲れた～」です。

同じ言葉ですが

I`m tired と書いて「飽きた～」にもなります。

是は状況次第でどちらもありの様です。

もし区別をしたければ

I`m tired out が「疲れ切る」

で

I`m tired of が「飽きる」

だそうです。

処でちょっと意外だったのは車のタイヤ tire と疲れたなり飽きたなりの be tired の語幹が同じ tire であったことです。先ほど偶然気が付きました。

でなぜ語幹が一緒なのか早速考えてみました。

タイヤと言えぱっと思いつくのが

「わっか」

「擦り減る」

「無限回転円運動」

となれば

「同じ轍（わだち、同じ轍を踏むのでつ）の中をぐるぐる回ってだんだん深みに足を取れ、
回れば回るほど却って抜け出せなくなる自縄自縛の無限徒労運動」

を自分は思い浮かべました。

うつ病から抜け出そう抜け出そうともがけばもがくほど深みに嵌っていったトラウマから
です。

なので、そのイメージなら「いい加減疲れる」「いい加減飽きてくる」の be tired とタイヤ
の tire の語幹が一緒でも「当然だろうな」と思いました。

I was tired too much enough, and at last have (or had) done being tired Ups.

(いい加減疲れて、最後は嫌になっちゃった (ウンザリしちゃった=飽きちゃった))

最後に使った ups はちょっとした「オエッ」みたいな感じの表現で使いました。

又 have じゃなくて had なら、それは昔の事で、今はそうじゃないというニュアンスが表
せます。

無理やり had を和訳すれば「当時は」とでもいたしましょうか。

2022/7/2-4

(It`s a English. Our side language English II)

The way of sentence construction PART 1



さていよいよここからが難所です。

難所という意味は皆様方にとって難所という訳ではなく、皆様方にわかっていただけるようにどうやって書くかという書き手にとっての最大難所、箱根将又天城峠越えだという意味です。

今回のお題は

「思いついた英単語から、次はそれを元にした咄嗟の構文選びと、その後次から次へと、落としそうで落とさない綱渡りリレーバトンを手渡ししながら、どうやって次の短文へとつないでいくか？」

の方法論の説明です。

●何よりも第一は、自分が喋った時の喋り易さ、リズム感、テンポ速度を念頭に置くことです。そして最初に浮かんだ語から、ためらわずに口にする事です。又可能なら相手が訊いた時に聞き易いだろうかの自問自答に合格しそうな音やリズム、テンポを念頭に置くことです。

●では、最初に選択する際、選びやすいように基本的な構文を上げておきましょう。

I think, know や feel, like, love 等の感情、感覚動詞。それと have, get, make, take, do, put, give 等の超有名動詞でスタートするもの

It`s a(the)～that(or which)

What ~(処のもの)で始まるもの

動名詞(ing)で始まるもの

To～で始まるもの

If～で始まるもの

6W + 1H で始まる疑問文

これらに組み合わせる時制などは大まかで結構。現在完了、過去完了などは、初めは無視して結構です。過去形、現在形、そして未来形の 現在形+ will の区別くらいで。

まずはそれくらいの種類から。

●次は構文の中でどの構成の文をとるかの選択肢も上げておきましょう。

以下 S=subject(主語)V=verb(動詞)O=object(目的語)C=compliment(補語)

の組み合わせです。

S + V

S + V + O

S + V + C

S + V + O + C

持っている駒はこれだけです。

●是をその瞬間ごとに「とっかえひっかえ」組み合わせていく訳です。

と言ってもそれほど難しいわけではありません。

慣れると

「次は大体これでつなぐしかないよな」

というのが感覚的に分ってきます。というより「なんとなくそんな感じのものが構文の方から」出てきます。

「次は私の出番でしょう」

みたような雰囲気です。

●一番大切なのは、細かいことに拘らない事。間違えたら外国人さんが直してくれるから大丈夫、位の気持ちでどんどん声に出してみる事。間違えたなと思ったり相手が分からず怪訝そうな顔をしたりしていたら

Sorry. You no understand my saying? Once more try, OK?

(ごめん。わかんない？もう一回やっても(説明して)もいい？)

位の詫び口上さえ入れておけば。

●間違えた事で、そしてそれを素直に認めて「教えを乞う」た事で相手はむしろ親しみやその率直な態度にこちら側の誠意を感じてくれる場合が非常に多いですから。

コミュニケーションの要諦は「飾らず素直」である事は全世界共通の様です。

では次回、或いはその後の記事も続けて、いよいよ本記事で紹介した要素の実際の組み合わせ例を試していきましょう。

2022/7/3-2

(It`s a English. Our side language English II)

The way of sentence construction PART 2



前回の記事で、自分は以下の様に書きました。

曰く

●では、最初に選択する際、選びやすいように基本的な構文を上げておきましょう。

I think, know や feel, like, love 等の感情、感覚動詞。それと have, get, make, take, do, put, give 等の超有名動詞でスタートするもの

It`s a(the)~that(or which)

What ~(処のもの)で始まるもの

動名詞(ing)で始まるもの

To~で始まるもの

If~で始まるもの

6W + 1H で始まる疑問文

これらに組み合わせる時制などは大まかで結構。現在完了、過去完了などは、初めは無視して結構です。過去形、現在形、そして未来形の 現在形+ will の区別くらいで。

まずはそれくらいの種類から。

●次は構文の中でどの構成の文をとるかの選択肢も上げておきましょう。

以下 S=subject(主語)V=verb(動詞)O=object(目的語)C=compliment(補語)

の組み合わせです。

S + V

S + V + O

S + V + C

S + V + O + C

そのうち今回は一番目の●について例をかいてみました。

以下は毎朝行う 3 分朝礼の本日分からの引用です。

Hey, you 2, both my boss!! Haha, it`s a joke!! Boss is me.

I have a message. May I have done it?

It`s the warning that overheat weather is not extra one but already getting usual weather.

What I want to say is that we should change our common sense for it as soon as possible.

And preparing for the change is the most important strategy of our restaurant.

To start our strategy is only the way to escape from sudden bankrupt.

If we delay, we never can survive even this summer.

Why?

Time no wait for us, and time no stay the same place, I think.

Understand? If you understand, let`s stand by at each our own position!!

My message is over. Just 3 minutes!!

（おい、お前たち、両ボス!!ははっ、冗談だ。ボスは俺だ。

メッセージがある。言ってもいいか？

このクソ暑さは特別なもんじゃなくて既に常態化している、という警告だ。

俺が言いたいのは、天気に対する常識を今すぐ変えなくちゃなんらんという事だ。

そしてこの変化に対する準備をする事が我々の最重要戦略（課題）だ。

この戦略を始めることが、我々が突然の店じまいから身を守る唯一の道だ。

もし遅れれば、自分たちはこの夏さえ生き残れない。

何故か？

時は待ってくれないからだ。時は止まっていないからだ。

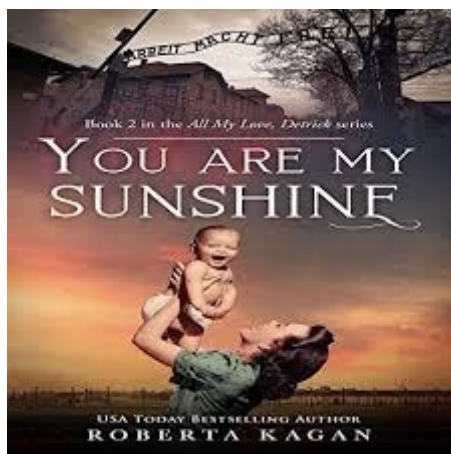
分かったか？わかったら自分の持ち場につこうぜ）

今回は二番目の●について例をかいてみます。

2022/7/3-3

(It`s a English. Our side language English II)

The way of sentence construction PART 3



今回は二番目の●について例をかいてみます。

の予告通り

●次は構文の中でどの構成の文をとるかの選択肢も上げておきましょう。

以下 S=subject(主語)V=verb(動詞)O=object(目的語)C=compliment(補語)

の組み合わせです。

1. S + V
2. S + V + O
3. S + V + C
4. S + V + O + C

についてちょっとご説明申し上げます。

1. S + V の例は I walk (私は歩く)
2. S + V + O の例では I love you (愛しています)
3. S + V + C の例では、ちょっと意外かもしれませんが I am walking (私は歩いているところ)

am が be 動詞で walking が状態を表す副詞句 (人によっては形容詞句) 扱いです。

4. S + V + O + C の例では I make you happy (君を幸せにする) とか to を入れたタイプとしては I want you to do it. (きみにそれをやってほしいんだ) とかです。

この場合の O (目的語) つまり you は第二主語 (仮主語) みたいなものです。

現在完了、過去完了や IF 等の仮定文、条件文、多段構成文などいろいろありますが、基本は全てこの 4 文型の中に納まると聞いております。

なので、複雑な文章に接した場合は上記4文例に分解してみると分り易くなりそうです。
それでも理解できない場合は、その文章の方がおかしい組立だといえます。
その場合は「この文章、少し組立が混乱しているように思えるのですが」とはっきり言った方がいかもしれません。

●以上は自分が中学までに習った英語の焼き直し版です。

高校受験に際して英語を勉強しましたが、全然はかどらず、受験塾や補習塾に行くという発想もなかったので、結局中学三年の英語のリーダー（文法副読本ではなくて）を丸暗記して事を済ませました。

しかし、今思うとそれが随分と役立っているような気がしております。

人によって適した学習法が違うので何とも言えませんが、自分の場合はこの方法が受験ではなく後日の為には「結果として」最適だったようです。

最後に

You are my sunshine, my only sunshine, you make me happy when sky the gray.

You`ll never know dear, how much I love you and my sunshine away.

有名なポピュラーソングの歌詞でおしまい致します。

これ、丁度4文型混交のいい例でしたので。

(教本参考付録)

辞書を置かない

考える英語教室

「前座の英語」 第九集

Pre & prep. English 9

「日本の人は日本語みたいに、ひらがな、カタカナ、漢字と三通りも在るようなメチャクチャ難しい言葉を難なく喋っている。すごいよなあ」

と横浜市青葉区すすき野の街の外国人さん。

「だったら英語みたいに難しくない言葉を、それこそお茶の子さいさいで喋れても良いはずなのに、なんで誰もしゃべれないんだろう？英語みたいにいい加減な言葉を喋るのはプライドが許さないのかもしれないなあ」

と、外国人さんは答えに困って妙な誤解答を引き出しているようです。

本書の願いは、その我々自身が生み出してしまっている謎の答えを解き明かし、成る丈多くの我が国同朋が英語のみならず我が国国語会話においても臆することなく「正々堂々と」話してみようかなという気持ちになって戴ける事です。

2021 年 6 月 26 日

目次

●序

●序二段

●get on and ride on/ image-training

●大丈夫(=daijoubu)?=Are you fine? No-problem-ly fine?

●no-problem-ly

●manual

●mutsukashii

●unseen 言葉の壁の元

●touch out

●watch TV

●prejudice

●count

●absent

●inter

●sounds of words

●interest と面白い(omoshiroi)

●push & pull & next further

(序)

何故、大方の我が国国民は頓悟がしゃべれないのか？

(仮説1)

前にいる外国人より、後ろの我が同朋のチェック目線やひそひそ話が怖いから。

(仮説2)

学校の規則と一緒に、学習内容が細目に渡って細かすぎるから。

何故細かいのか？

受験英語だから。

受験英語は落とすための英語。簡単に言うとあら探し英語だから。

(仮説3)

結果、失敗を怖れて何かをする前からビビりまくって手も足も出ない「だるまさん状態が常態」だから

ではないでしょうか。

(結論)

だったら、

「失敗はない。経験があるだけ。だから失敗は成長の糧」

「ダメ元、元々ゲンキの素。開き直れば花が咲く」

で、まずはハードルをうんと低くして

「使えるものなら何でもあり」

から始めてみましょうよ。

(序 二段)

本書は「コロナ渦同時進行執筆 ナマステ別館堂主人 ニューノーマル探索サバイバル日記 巻末」及び「辞書を置かない英語教室 すすき野留学」に掲載した「オマケの英語教室」をとりまとめ、いくつかの書き下ろしを加えたものです。

本教室及び本書(続編含)はコロナ渦期間中開講及び発刊予定ですので、いつ終わるかは、現時点ははっきりしておりません。

筆者は海外赴任、海外留学をした事はありません。英語学校にも通ったことはありません。

では、何処で英語を覚えたのか？

ご当地「横浜市青葉区すすき野」の地においてです。

周りに敷金礼金なしで自然環境がとてもいいUR団地群が一杯あり、英語を話すアジア系、スラブ系外国人さんが沢山住んでおり国内にいて留学したのと同じ環境があったからです。そこに、ひよんな事から定年退職後、ネパールカーリー屋を開くことになり、従業員もお客様

の一部も外国人だらけだったからなのでした。

そこで分かったことは「正しい」英語を話すことより「どうやったらたまたま隣にいる隣人（我が国国民でも外国人でも）と意思疎通を図れるか？コミュニケーションできるか」の方が遙かに大切だと言うことでした。

つまり目的が全然違ったのです。

「正しい」ではなく「分かってもらえるか、相手のことが分かるか？」だったのです。

だとすれば、語学は単にその一手段でしかない。他にもジェスチャーや表情やらハグやらイラスト、図表、ナンだって使えるんだ。何を使ったっていいんだという具合に考え方がまるで変わってきたのです。

そう思うと受験英語の正しさなんて、広い体育館の端っこの、平均台の上を後ろからナイフを突きつけられながら、恐る恐る歩いているようなもので、実につまらないというか意味の無いことのようにも思えてきました。

それって外国人から見たら「変にしかみえないよなあ。何を端っこの方でビビっているんだ？体育館はこんなに広いのに。平均台から床の上に降りて走り回れば良いのに」と言われているような気もしました。

因みに自分は大学一年次の必修英語を5年間落とし続けて6年目にやっと単位を取った位のレベルの英語学力でした。（恥ずかしながら大学院進学ではなく2年間留年したということです）

それもそのはず、英語は「学力」ではなかったからです。

英語は「上から習って教わるもの、定型を覚えるもの等ではなく、考えて自分なりに創り出す事のできる極めて自由度の高いもの」

でした。

国の数だけ、もっと言うと人の数だけ個性に応じた英語の種類があってよかったのです。全く意外にも。

これらの「序」「序 二段」にご興味を感じられましたら、まずは騙されたと思って読み進めてみて下さい。

本格的英語学習に入る前には是非とも必要な

「前座の英語」

教室です。

つまらなければ何時でも「ボイ」できますから。

それで一向にかまいませんので。

(本編)

2022/6/2-2

(オマケの英語教室)

get on and ride on/ image-training



「是からバスに乗るから、あとで電話する」

“I'll get on the bus from now, then I'll phone later”

この場合の get on はバスに「乗車する」の意味です。

しかし、これを

“I'll ride on the bus from now, then I'll phone later”

と ride on を誤って使ってしまうと

「これからバスに乗る（バスの屋根か何かに跨る）から、あとで電話するよ」

と変な話になってしまいます。

元々ride on は ride on the horse「馬にまたがる」からきており、他には ride on the bicycle「自転車に乗る」などがあります。

（余談：こうしてみると get on は多人数用の乗り物でたいていの場合屋根のある box タイプのものに使い、ride on は一人用で屋根のない open なタイプのものに使われているようです。

Big wave に「乗る」は ride on the big wave ですが、この場合は「跨る」というより「振り落とされない様にしがみついて乗る」のイメージで、それは上記の horse や bicycle にも共通するように思われます）

基。

バスに「乗車する」の意味なら本来 get on とすべきところ、誤って ride on を使ってしまったことで、耳にした外国人さんは当然ながら「バスの屋根か何かに跨る」絵姿を想起してしまい内心

“What? Is it true? Is he a stuntman?”

「何？ほんまかいな？奴はスタントマンなのか？」

と思われるのがオチ。

なので、英語学習の場合には日本語の訳語をいったん perfect delete(完全消去)するなり言語化文字化作業そのものを敢えて飛ばし、get on なら「乗る」ride on なら「跨る」などの英単語の原義自身が持つ音声的映像的イメージやその連想効果産物のみを念頭に（元に）話すなり書くなりされる訓練をした方がよろしいかと老婆心ながら思っております。

つまり英語学習の場合敢えて言葉に訳さず、イメージや連想産物だけを蓄えていくことがより効果的で達成の早道になるのではなかろうかと。

以上、英語学習に関する

「イメトレの強いお勧め」

でした。

2022/6/10

(オマケの英語教室)

大丈夫(=daijoubu)?=Are you fine? No-problem-ly fine?



朝、外国人従業員が出社してくると既に控室で事務作業をしている自分に必ずこう聞きます。

「しゃっちょ、ゲンキ？」

かなり疲れているときに、見ればどんな状態かわかりそうなものなので、この毎回繰り返される「ゲンキ？」にはいささか辟易しておりました。

何故毎回 {ゲンキ?} と訊くのだろう。

そう思っていた矢先にたまたま外国人向けの日本語辞書を見たところ？

「大丈夫(daijoubu)?=Are you fine?」

となっているのを見つけました。

「大丈夫 (daijoubu) ?=Are you fine?」

で

「ゲンキ (genki) ? =Are you fine?」

故にこれを連立方程式として解を出すと

「大丈夫? =Are you fine=ゲンキ?」

「ゲンキ? と訊けば=大丈夫? と訊いている事に」

「それで、かァ。連中にしてみれば疲れて見えるときには「大丈夫?」と聞いている積りだったん、だァ」

と合点が行きました。

しかし考えてみれば外国人が答えとして日本語の「大丈夫」という時の英訳なら「OK」で済みますが、外国人が疑問形で {大丈夫?} となるとそれに該当する英訳は結構難しいかもしれないと思いました。

そもそも「大丈夫」という日本語漢字は構成からして「大」+「丈夫」です。

「大」はレベルの話ですから外すとすれば残った「丈夫」と何のことか？と言えば

「健やかな」「健康な」「頑丈な」という語句が浮かびました。

最後の「頑丈」は少し行きすぎの様な気がするので、共通したイメージは何かと考えてみた
処「揺るがない」「揺るいでいない」というイメージが出てきました。

是を逆に英訳してみると

Are you fine? No-problem-ly fine?

という造語がまず浮かびました。

他には

副詞句 no-problem-ly の差し替え案として

Continuously

fixedly

Not-upset-ly

等「揺るがない」「揺るいでいない」から浮かぶイメージの造語も出てまいりましたが、余り
英語が得意でないわが社の外国人従業員の事を考え、彼らが日頃よく使う単語の No
problem からヒントを得た最初の

Are you fine? No-problem-ly fine?

が一番妥当な英訳造語だろうと考えております。

追記)

因みに弊社では英訳造語（或いは造語英訳）など日常茶飯事で平気の平左で御座います。

兎に角通じて、相手がわかればことはすみますので特に問題視はしておりません。

これを別名「ナマステエブリバディ語」（当店カーリー店名＋語）とも称しております。

2022/6/11

(オマケの英語教室)

no-problem-ly



もし英語を学ぶ目的が受験だったら。

TOEFL、TOEIC だったら。

外交官になる事や英語の通訳になることが目的だったら、

絶対に

「大丈夫？」を Are you fine? No-problem-ly fine?

とする英訳は生まれてこなかったでしょう。

いや、発想すらしなかったでしょう。

何故ならそれらの世界では完全に「× (不正解)」だからです。

なのに、なぜこの語が生まれたのかと言えば、コミュニケーションこそが目的であったからです。

その時、その場、或いはその前後の経緯の記憶 (history) から生まれた訳です。

このように目的が変わると見えてくる世界や行動するフィールド、或いは行動そのものが全く変わってきます。

そしてどうしても相手とコミュニケーションしたい欲求が強く、またその必要性が喫緊の課題であった場合には、何が何でもコミュニケーションをとる手段を考え出すものです。

そして、そういった羽目に陥った場合の「臨機応変な対応力」「応用力」「創出力」の醸成こそが大切だと考えております。

英語はまさにそれを成り立たせるには打ってつけの flex 言語だと思います。Flexibility にあふれた言語だと見受けられます。

しかし日本語においてもこういった flexibility 溢れる領域が存在します。

それは二語、四語、あるいは複数語の漢字熟語の分野においてです。

例えば国語辞典にはない

極空 (ごくから = 極めて中身なしの空っぽ状態) = super vacant(empty)

言語道断級極空（ごんごどうだんきゅうごくから＝いうのもおこがましい程の中身なしの空っぽ）=lost word level super vacant(empty)

極辛（ごくから＝極めて辛い）=super hotness

悶絶的極辛（もんぜつてきごくから＝悶絶するほど極めて辛い）=super hotness like a naturally wants to twist body

等いくらでも創出できますでしょう？

まずは創作漢字熟語から初めて、次はその英訳に挑んでみるのも一興かもしれません。

2022/6/12

(オマケの英語教室)

manual



Manual と言えば日本語でマニュアル (外来語)

純粋な日本語では手順、手順書。昔流に言えば手本。

それをかなり仕事場に限定して申しますと

「従業員遵守、行動用例要領集」

という感じでしょうか。

是を昨今の従業員気質から捉えますと

「要するにこの通りやっていたらいいんですよね？」

で、その裏には

「書いてある通りにやりました。でもそれ以外の事は知りませんよ。書いてない事迄できませんし、何かあっても書いてないそちらが悪いんですから」

という気持ちが見え隠れ。

それを世間が評して

「マニュアル人間」

と。

こういったマニュアル人間が増えますと、マニュアルを作る側も警戒して取り零しや突っ込まれ処がない様にあれもこれもと入り込み最後には取説本編前の注意警告文言の様にずらずらと冗長になり下手をすると本編より長くなってしまう場合も出てきます。

早い話こういった場合の manual は決していい意味では取られておりません。

一言で申し上げますと

「主導権を人間側から奪い隷属又は形骸化させるもの (その反面責任回避の源)」

とでも申しましょうか。

一方話は変わって自動車にはオートマ車 (by automatic function operating car) とマニュアル操作車 (by manual operating car) の二種類があります。

扱いとしては後者の方が免許取得時の難易度が上で、格式も高くなっております。

その格式が上位にある理由としては

「運転上の判断が全て操作者に委ねられ、操作者はその判断を下せるだけの自動車に関する知識と技量を有する者であるから」

という事なのでしょう。

此処での manual (手動操作) の位置づけは上述の manual (手順書) の位置づけとまるで正反対に

「主導権及び責任が人間側にある」

事になっております。

同じ manual という語なのに意味合いがまるで逆になっている。

ならばこの manual という語のそもそもの原義は何なのか？

それが気になりだしました。

手順書としての manual を別の英語で言えば guide。

受ける側からすれば「導かれるもの」で態としては passive (受動的)

一方手動操作としての manual は別の英語で言えば by one's self own。

行う側からすれば「自発自力」で態としては active (能動的)

増々正反対。

さてどうしたものか？

で、ふと manual という字をよく見ると man + ual と見えました。

語幹が man

どういう事？

この語が出来たのは大昔。現代の思潮とは異なっていた筈。

ではその当時の思潮からみて symbol としての「男」はどんな意味を持ち役割を担っていたのか？

それでその時代の人間になった積りで考え、思いついた言葉が

Manual=「(長又は手本として自ら)先導する」

別の英語に置き換えると lead

それを行う人間が leader (リーダー)

となれば manual 車は self-leading でしょうし

Manual 本は leading guide に。

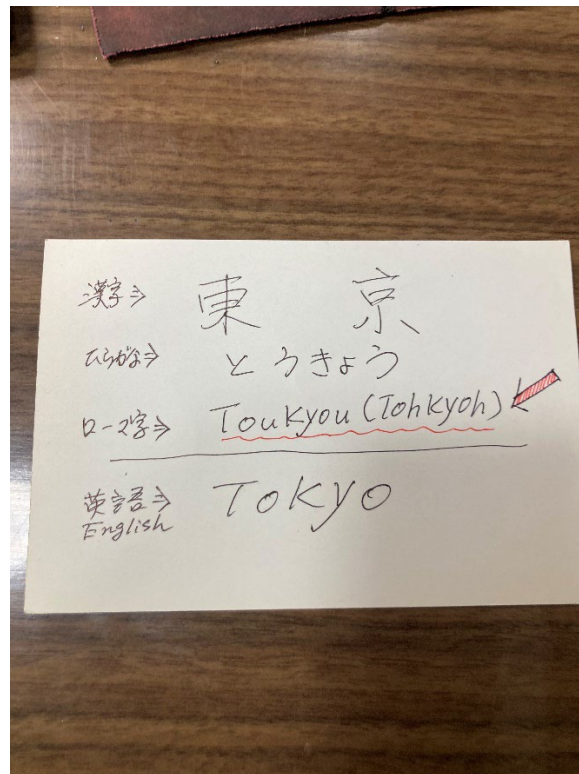
合っているかどうかは分かりません。

が、是なら合点がいきます。

2022/6/14-3

(うとQ世話し)

mutasukashii



日頃何気なく使っている日本語。是を外国人に教える事がこれ程大変なことだとは思ってもみませんでした。

英語に翻訳するのがどうこうという話では全くありません。

そこに辿り着く前の難関の話です。

それは

「一体何をどこまで教えたらいいいのか、その範囲の膨大さに唖然としてしまった」

のです。此処迄が整理の話。

次は

「それをどうやって」

という技術の話。

そして、最後は

「分り易く」

というコミュニケーションそのものの話。

まずこれが整理できませんと英訳する意味がありません。

無論これは数多あるコミュニケーション方法の「語学」という分野に限っての話ですが、我が国の「公」がそれを求める以上何らかの方策を考えなくてはなりません。

ひらがな、カタカナ、漢字に始まって音読み、訓読み、敬語。

数の読み方にも、いち、に、さん、がある他にひとつ、ふたつや、ひい、ふう、みい、もある。

小舟が一艘で大きな船は一隻。紙は一枚、飴は一粒、雨は一滴などなど。

是をどうやったら分って貰えるのか？話を聞く気になって貰えるのか？

譬えが悪いですが是は丁度自分の様な日本のじいさんに

「HTML 構文を掛けるようにしろ」

と言っている様なものです。

「構文文法を 1, 2 年でマスターして試験に受からないと入国許可は出せん」

と言っている様なものです。

外国人の中には日本語ができる人もいるでしょう。例えば欧米の大学の日本語学科を出た様な人。

しかしそんな人が入国希望者の中に何人いるでしょう？

そもそも外国人が皆高等教育を受けた人間だとも限りません。いや、圧倒的に受けていない人の方が多いのです。

となると何が起こるかと言えば、日本語学科卒以外で高等教育を受けた外国人入国者は日本語依存度の比較的少ない外資系企業の日本法人や英語が公用語のごくごく一部のグローバル IT 企業に流れてしまいます。

詳しいメカニズムは説明できませんが富や付加価値分が海外に流出してしまい我が国には残りません。

残るのは生産的付加価値の低い外国人労働者ばかりになります。

是では我が国にとっても又働きに來られた方々にとってもお互いが不幸になる様に思えます。

結果、移入によって生産人口は増えたが生産性はまるで上がらなかった。我が国は骨折り損の草臥れ儲け。「ならばいらんから出ていけ」と言われた外国人は恨み節。という結果が見え見えます。

ならばどうすればいいのか？

まず最大の障壁と言われている「言葉の壁」を「官民一体国民的レベルで我が国側から崩す」事。その為の工夫を全てやりきる事。

前提は

日本語の難しさを肝で認識する。

少しでも多くの日本人が英語を喋れる様にする。

方法論としては

公的看板、メディアはひらがな表記と併せてひらがなのローマ字表記（アルファベット 26 文字）をする（外国人は 26 文字だけですみます）

英語を逆に受験必修科目から外す（争いの武器としてではなく生活の道具として扱う様、見立てを変える）

等でしょうか。

2022/6/15-2

(うとQ世話し)

unseen 言葉の壁の元



行掛り上、外国人向け日本語教本を作る事になり、実際に作業に取り掛かってみて非常に驚いた事がございました。

それは漢字一字の持つ情報量の多さと想像力の起爆剤にもなり得るヒントの隠れ鉱脈が随所にある事でした。

まず漢字には音読みと訓読みがございますが、字によっては音読み 2 つ、訓読み 4 つ等一字で 6 つも 7 つもの読み方があり、しかも夫々にニュアンスが異なっております。

又漢字の成立ちを見ていくと漢字部位の構成や組合せ方で古しえ人の発想法や考え方、当時の世界観、価値観等も知る事ができ改めてその情報量の多さに驚きを禁じ得ませんでした。

翻って見れば漢字というのは読んで字の如く元々は中国漢時代の字です。その表意文字である漢字を中国の朝貢国である我が国が輸入し、それに我が国固有の語を、漢字を簡略化したひらがな、カタカナで表音化し、漢字と交えて独特の言語文化を創出した訳です。

本源の中国は漢字のみ。

同じ朝貢国であった百済や高句麗等も漢字を輸入したのですが韓民族の場合は漢字の扱いが難しかったからかどうかは知りませんが表意文字の漢字より表音文字のハングル文字が主体となった様です。

然るに我が国では表意文字の漢字はおろか表音文字のひらがな、カタカナ迄が加わり本源を凌ぐ様な、更に複雑な言語と化しました。

更にわが国民性の特徴である「的確、厳密、整然好み」の傾向から意味が少しでも違えば別物として新たに造語をどんどん創出していったらしいので、複雑さと多様性は止まる処知らずではなかったかと推測致します。

恐らく当時の言語造りに携わった人達の脳裏には中国長安の碁盤の目の様に整然と広がる

街区が強く刻まれていた様な気がしております。

処が表意文字である漢字は只でさえ情報量が多いのに更に表音文字であるひらがな、カタカナを加えた情報量の加速度的増大は文字やそれを記した書物への偏重を促したのではないのでしょうか。何しろ文字（書）を「見れば」相当量の情報が立処に得られたのですから。しかしそれが逆にその他のコミュニケーション手段の発達を阻害した可能性も考えられます。

一方表音文字文化の海外（特に欧米）では表音文字であるアルファベット自体には意味というものはなく、そのアルファベットの組み合わせでやっと思いを表す事になります。

となると当然文章は長くなります。欧米のペーパーバックがやたら分厚いのはそのせいかもしれません。

となると長い文字の連なりはダルいので当然文字を「見て」情報を得る以外のより早く情報が取れる「聞く」「話をする」「振舞いや表情で情報を伝える」文化が発達した事も考えられます（多民族混合言語地域であるという以外の理由に）

是が我が国との差となって現れ、相互混乱を招き、就中我が国国民がコミュニケーション手段のマルチ用法を主とする英語を理解できない「言葉の壁」の元になっているのではなからうか？と。

2022/6/16-2

(オマケの英語教室)

touch out



野球の本場、アメリカ人に

Your behavior is not good. It's out of manner. Touch out level, I think.

(君の態度、よくないよ。マナー違反だ。(野球でいうところの)「タッチアウト」レベルだと思うぜ)

と言えばスムーズに通じて笑ってもくれますが、

例えば当店の外国人従業員（ネパール人）にいても通じませんし笑いも取れません。

ネックになったのが”touch out“という単語です。

それというのも、ネパールには国民レベルでの野球に対する認知が殆どないからです。

なので、話者が相手にジョークとして気付いて欲しい

「攻撃側選手がホームに滑り込んだ瞬間、審判が右上から左下にかけて電光石火、袈裟懸けに振下すアウトのポーズ」

等彼等には想像しようがなく

「なんでここに touch out なんていう単語が出てくるんだ？」

という「？」しか生じさせないからです。

結果ジョークの考え損。

この様に使う英語が正しいか否かの前に例え正しくてもその英語を使って相手に通じるか否かの問題がある事を知りました。

つまり

「まず前提をチェックするステップを設ける必要がありそうだ」

と。

We should put (or set) the step for checking to our common fields (or preset), maybe.

我々日本人はとすると

「日本の常識は世界のどこでも通じるものだ」いや「日本と世界各国津々浦々で違いがあるという事さえ考えたこともない場合が多い」

ので

「これから自分がする日本の常識に基づいた話は世界でも（日本人以外の聴き手にも同じ様に）通じるのか？」

という相手との共通基盤や共通認識に対する事前チェックをしない事により生まれる行き違いが生じやすい傾向にあります。

だとすれば我が国国民の多くが英語を話せるようになるにはまずこの

「島国鎖国」

「井の中の蛙大海を知らず」の

「裸の王様」状態に

「実は長年立っていたのだ」

という「気づき」が何よりも喫緊の課題の様な気がしないでもありません。

誠に失礼な言い回しですが。

叩かれることを覚悟のうえで申し上げましたが、それはさておき

思うに、

中学一年で何の説明もなくいきなり this is a pen 又は I have a pen と外国語（英語）を始める前に

「これから習う英語は日本語同様コミュニケーションをとる道具です。

日本人には日本語が通じるから日本語で話しますが、外国人には英語が一番通じやすいので英語で話す事になります。

しかし英語は一つではなく国の数だけ英語があります。アメリカで通じる英語とネパールで通じる英語は違います。文法や約束事が違うのではありませんから心配はいりません。ただ、その国の歴史や文化、生活環境によって通じる言葉があったりなかったり、同じ単語でもすごく心に響いたり国によってはそうでもなかったりします。

世界は日本の中の様に皆同じではなくて皆それぞれ違うのです。でも違うからのけ者にするのではなく、違うから相手に配慮したり、違うものを面白いと感じたりすることが大切です。

英語の学習を通してそれを学んでいきましょう」

まずは先生である大人がそうなる必要があるのかもしれない。

2022/6/24

(オマケの英語教室)

watch TV



テレビをみる (Telebi wo miru)。

是を漢字で正確に書くと

テレビを見る

と

テレビを観る

に分かれます。

しかし日本語では漢字で書く場合両方とも「テレビを見る」と書くのが一般的でしょう。

ところが大雑把なはずの英語にも拘らず、この場合は厳然と描き分けるようです。

即ち「テレビを見る」は

Watch TV set.

「テレビを観る」は

Watch TV program.

要するに前者は TV という機器の状態をチェックするという意味で

後者はテレビ番組というコンテンツを観賞するという意味ではっきりと使い分けているようです。

是は一語で多くの情報を持った漢字のような存在がない英語では、このように別の単語を付加して（この場合はハードとソフトを）明確に区別する必要があるからではないでしょうか。

ですので、TV の後に program をつけずにテレビ番組を見るという意味で watch TV という場合によっては

What happen? TV set is not running (=is getting broken)?

(どうかしたの？ テレビ点かないの？ (壊れちゃったの？))

と妙な質問をされることもあります。

なので、此処は手抜きをせずに、状態をチェックするという意味でなら watch TV の後に set を

番組を見るという意味でなら watch TV の後にちゃんと program をつけた方がいいでしょう。

英語より細分化されていて細かい区分けがあるはずの日本語の方が却って大雑把な場合もあるようです。

用いる漢字の違いをいつの間にか忘れてしまい、慣用的には同じ漢字を充てているような上記の例の様な場合です。

こうしてみると、英語を学ぶという事は同時に日本語を改めて見直す事でもあるようです。

2022/6/26

(オマケの英語教室)

prejudice



“Prejudice”とは「偏見」の事也。

日本語で「偏見」と書くと「偏った（かたよった）見方（みかた）」だとすぐに意味が分かりますが、英語の prejudice はどうでしょう？

是を紐解くのにこう書くと分り易いかもしれません。

曰く

Pre + judge

Pre は「～の前の」とか「前もって」とか訳されます。

Preseason「季節前の」とかありますし、preparation school「予備校」とかでもおなじみでしょう。

では Judice に置き換えた judge はどうでしょう？

是は言わずとした所謂「ジャッジ」「判断」の事です。

となれば prejudice は

「見る前、聞く前から前もって判断してしまっている事」

となります。

別の言い方をすれば「先入観」「固定観念」とも言えそうです。

是を並べてみますと「固定観念から抱いた先入観が偏見を産む」

とか。

Fixed thought from pre-perspective (=preconception or preoccupation) might bring us prejudice.

かもしれませんね。

2022/6/26-2

(オマケの英語教室)

count



You are countable

たとえば

「お前は充てになる=お前は数えることができる奴だ=頭数に入れられる」
でしょう。

We can count you

でもいいかもしれません。

反対に

You are no countable 乃至は we never can count you となれば

「充てにならん。員数外だ」

という意味でしょう。

此処での count の訳は言わずもがなの「数える」です。

大みそか恒例の新年迄残りあと何秒という時の count down という言葉でもおなじみでしょう。

処でこの count の派生語で counter という言葉があります。

バーやラーメン屋さんでお馴染みの、邦語で「止まり木」の事です。

では何故止まり木を表すのに英語では count(er)を用いるのか？

思うに店の人から距離が離れたボックス席に比べて目の前の距離なので

「数がすぐに数えられる距離のお客さんの席」

というところから生まれたのではなかろうか？と推測しております。

もう少し短く申せば

「相対のお客さんの席」

では、更に同じ counter でもボクシングの counter punch に何故 count(er)が用いられるの

か？

是に直上の訳の「相對」を当てはめてみますと「相對の拳」となります。

しかしこれではボクシング特有の緊張した場面で用いるには、些か役不足の感が否めません。

ではこうするとどうでしょう？

曰く

「出会いがしらの拳」

少しは臨場感が出てきた様な感じがしませんでしょうか？

それでは再度翻って count の原義とは一体何なのでしょう？

「数える」「相對の」「出会いがしらの」

はてさて？

話は変わりますが count の接頭辞の co は「共に」を表します。

Cooperation(共同運営)co-having(共有)communication(交流)

要するにまず「相手がいる」という事です。

-unt は何の事だかさっぱり分かりません。

それでは話を元に戻して

では、count の原義となんぞや？

思うに

「出会いがしら初対面の相手に対してまず咄嗟に行う自己防衛本能的な行為」

の事で頭数を数えるというより

「目の前のこの人は自分にとって有用なのか否か？」

もっと言えば

「敵なのか敵ではないのか？を判断する行為」

の事を count と言い始めたのではなかろうかと思いました。

英語の発祥の地は多民族国家乃至は隣接に他民族が多くいるところだったとすれば

「目の前に突如現れた未知の他民族に対してまずはこのように身構えたであろうこと」は想像に難くないからです。

ですが、これは自分の推測。

さて真偽やいかに？

2022/6/26-3

(オマケの英語教室)

absent



(オマケの英語教室 absent)

He is absent today

「今日彼は欠席です」

He is absent today

「今日、彼は休みだ」

学生時代には上を、今では下を自分は使っています。

処でその人が欠席だったり、例えば出社していなかったりすることを何故 absent というのかをまたぞろ考えてみました。

兎に角これから夏本番、今日など朝 8 時の段階で 31 度というレベルの猛暑日和なのに、あろうことかエアコンが漏電事故でぶっ飛んでしまい、室内室外機共に交換しなくてはならないハプニングがありました。

が、コロナ禍、ウクライナに続く第三弾、且つお客様の購買意欲の観点からは最も重症度の高い、昨今のインフレへの警戒感によるご来店数激減の影響で当然ながら買掛費用など捻出できる訳もなく現在本社は生き地獄さながら。

なので、何かしていないと気が狂ってしまいそうなものですから、気分散らしの為もありまして例によってのあれを「またぞろ」行った次第。

というような余談はさておき「欠席」や「出社しておらず（休み）」等の「不在」を英語では何故 absent というのか？

で、ふとうちの英語教室の名前が「すすき野留学」であることを何故か思い出し、それでは留学を何というのかを考えてみたのですが、多分

Go to study abroad

とでもいうのだろうか？と考え、次にはこれ又たまたまメールを送り忘れていたので送った後で、メールを送る(送り出す)のは

Send (out) a mail

でそこから「えっ？」と思い

Abroad の ab

Send の完了形（形容詞）が sent

で、

Absent

即ち「外国（遠いところ）に送り出されたような」ある一線の向こう側に行ってしまった状態が absent

で欠席とか休み（出社しておらず）を表す言葉になったのではなかろうか？

と。

正解かどうかは分かりませんが、そう考えると一度に三つの単語を印象的に関連付けて覚えることができます。そして一時暑さを忘れることにも役立ちました。

ついでと言っては何ですが、この場をお借りして

皆様方へ

暑中お見舞い申し上げます。

2022/6/27

(オマケの英語教室)

inter



「お手軽簡単便利に、on demand を実現する interactive TV」

On demand? Interactive?

「なんのこっちゃ、さっぱりわからん」

今を去る事 30 年程前、当時勤めていた家電製品関係の会社でその頃既に行き詰って久しいテレビ事業の打開策として

「送られてきた番組をお茶の間で受動的に見るだけの既存視聴形態からリビングや個室で見る能動的参加型視聴形態に新たな活路を見出す需要創造型事業」の推進役に、パイロットナビゲーションだけで売上責任を持たない推進事業室形態の新組織が立ち上げられました。既存 TV 事業の行き詰まりの「すべての責任は商品企画にあり」と厳しい評価を社内で得、当時商品企画現場責任者だった自分は完全な抑うつ状態に陥り、程なくその組織に移動を命じられました（平たく言えばお払い箱、左遷です）

失意のどん底、アタマも働かない状態で冒頭の 2 つの英語単語を聴かされ内心密かに

「もう、ダメだ。自分は此处でオシマイだ」

と覚悟を決めた瞬間を今日の午前中の事のようにありありと思い出します。

と、皆さんが気の滅入る様な愚痴はこれ位にして今日のお題を。

それは interactive の接頭にある inter。

まず inter の意味はどういう事かという前に

International (inter + national=inter + nations) と言えば「国際的な」です。

Interphone (inter + phone) と言えば「インターホン」

とすれば

Interactive は inter + active=inter + actions となりそうです。

此处で問題。

「では上記3語に共通する inter の概念は？」

Inter はよく inner と間違えて捉えられるので「～の内側で」と思いがちですが今少し観察してみると

nations なら「国同士」の「やり取り」

phone なら「フォンを介して」の「やり取り」

とも言えそうです。

「お互いの差を差として認めた上でのやり取り」であれば「交差（差の交わり）」という語に置き換える事ができるかもしれません。

となれば

Actions の場合は「行為（能動的行為）を介して」の「やり取り」別名「交差行動」と訳せそうです。

つまり inter とは差を差として受容しお互い「やり取り（交差）する事」

因みに冒頭の「お手軽簡単便利に、on demand を実現する interactive TV」の意味（訳）は「需要に応じて（需要のままに）能動的交差行為を介してそのニーズをお手軽簡単便利に実現する TV」

簡単に言うと

（番組放映時間を待たずにこちら側からの指示による）

「スイッチ、ポンで自分が今、見たいものが直ぐに見られる TV」

「時間に縛られず、自分の都合に合わせて見たい時に見たいものが見られる TV」

という意味だったのかもしれませんが。

追記）

結局その事業は失敗しました。ハード面では単に TV にインターネット仕様を追加するだけの TV set は完全に PC やスマホがそれに取って替わってしまったからです。

そしてお茶の間の団欒は消え、家族は皆、個室に籠ってしまったのが「今現在その結果としての家庭の姿」なのだと言えるかもしれません。

なので、その結果を見ると自分は「TV サイドとしては personal TV ばかり増えて儲かるよりも却って失敗してよかったのかも」ととても複雑な思いに駆られる事が時々あります。

Sometimes not in success is better?

2022/6/27-2

(オマケの英語居室)

sounds of words



英語では前が front、後ろが back

上(に上がるの)が up で、下(に下がるの)が down

右が right で、左が left

「何の話しゃねえん？」

とお思いでしょうが、こうやって見渡してみると前とか上等の、どちらかというと(+)概念を表していそうなものは清音や破裂音(軽く澄んだ音)で構成され、後ろとか下等の、どちらかというと(=)概念を表していそうなものは濁音(重く濁った音)で構成されている様な気がします。

元々言葉というのは文字からではなく音から始まっている訳ですから古代人も耳にした時の印象から言葉にあたる音を作り出したり組み合わせたりして言語化していったのだと思われます。

その古代人も現在の我々同様、済んで軽やかなものには前進や飛翔を感じ、濁って重量感のあるものには勾引や下降を感じ取っていたのかもしれない。

それでは right と left はどうでしょう？

この二語には上述の様な前進、飛翔と勾引、下降の対比は感じられません。何となく同等です。

ですが、right には r の巻き舌が使われ、left にはそれが使われていない処を見ると、r の巻き舌の分だけ、多少力が入っている様な気もします。何となくうっすらとですが right に軍配を上げている様な。

(ここで申し上げている right と left は思想や思潮とは一切関係がございませんので、誤解

為されませぬ様お願い申し上げます。単に音の話で御座いますから)

では何故右側に多少なりとも軍配を上げているのか？無意識にせよ、ですが。

話は変わりますが赤ん坊を右利きにするのは結構大変です。

親が赤ん坊を自然に抱けば、赤ん坊の頭が左側。足が右側になります。

それは利き手が右手の人が圧倒的に多い親からすれば、利き腕の右手が自由な方が赤ん坊の世話をし易いからです。

ところが是だと頭を親の左腕で抱えられた赤ん坊の右手は親の胸側に来ますから自由が利かず、反対に自由が利く左手を動かす事になり、赤ん坊は左利きになってしまいなす。

なので、赤ん坊を右利きにしようとすれば親は利き腕の右手で赤ん坊の頭を抱え、赤ん坊の左手を親の胸側にして、右手を自由に動かせる様にしないと赤ん坊は右利きにはなりません。

親にとっては結構な負担でしょう。

それでも親は右利きを選ぶ。

何故？

「世の中が右手優先の文化だから」

というのは後日の話で一番の発端の説明にはならない様な気がします。

ではそもそもの発端は何だったのか？

自分の推測によればですが、これは心臓の位置に関係している様な気がしております。

大抵の人は、心臓は左側。

心臓は heart と心臓ともいわれ古代から脳と同じ位に「最重要臓器」として認識されていた。

何故なら「ドクンドクン」と常時片時も休む事なく脈打ち続けてその存在を常を感じさせていたから。

その心臓を咄嗟に守るとしたら、同じ側の左手よりも反対側の右手の方が確実かつ素早く防御できたからではないかと。

それが、右（手）が優位になった理由、かな？

Right hand lightly could get defensive, then right(hand) has been given advantage?

2022/6/27-3

(オマケの英語教室)

interest と面白い(omoshiroi)



前の記事で inter という接頭辞には「やり取りをする」という意味がありそうだという旨のお話をいたしました。

それに倣えば be interesting (興味を起こさせる、面白いと思わせる) be interested in(興味を持つ、面白いと思う)で使われている

Interest は inter + rest

と分解すると「休むことのやり取り」となります。

一方日本語の「興味」は「味わいたい気持ちを興させるもの」となります。

では「面白い」は何故「面(顔の事)が白い」と書くのか？

そういえば昔ある新聞のコラム記事で小学生が書いた文章に非常に驚かされた記憶があります。

そこにはこう書いてありました(大意のみ)

「白は汚れがなくて綺麗だといいますが、逆にどうにでも染まるという事もあるのでとても怖い気がします」

と。

「えっ、これ、小学生が書いたの？」

と大変びっくり致しましたが、その記事を逆手から再び順手に持ち変える気持ちで、どうにでも染まるという件(くだり)をいい意味に解釈いたしますと

「面白い」の分解語、即ち「面が白い」と「なんでも描けそうだから、何を描いてもよさそうだから」「面白い」とあらわすようになったのではなかろうか？と。

となれば冒頭の inter + rest の interest は

「休んで (rest time) リラックス(relax)しているときの「やり取り」こそが、自分や相手の顔をいったん白紙化するので、面白いものが互いに描けそうだ (面白いやり取りが出来そうだ)」

という意味になりはしませんでしょうか？

そう解釈すると「それこそ面白い」気がしてきます。

自分だけかもしれませんが。

“Interest” means when you stay in rest time, your face and others to each other, will turn to white free canvas (or white sketch book) Then you can do a catch ball in relax mode and will feel interested in and will let interesting to each other, I think.

2022/6/28

(オマケの英語教室)

push & pull & next further



Push と Pull

「押す」と「引く」

この語自体はまさしく対比関係になっております。

(我が国でよく言う処の「押してもだめなら引いてみな」関係式です)

基!!

なので、マーケティングの本に書いてあった「Push 戦略から Pull 戦略への転換」

という文字を見て素直に「Push 戦略と Pull 戦略は対比関係である」と平行移動或いは参照式(機能)を含んだコピペをしてみました。

そして無意識に

「Push 戦略とは顧客が欲しくもないものの無理やり押し付け(込み)戦略であり Pull 戦略とは引き寄せられて顧客側からこちらにやってくるように「なる」戦略である」

と勝手に置き換えておりました。

しかしここ4年程、実商売をやってみますと

「実は Push 戦略も Pull 戦略も姿勢こそ正反対に見せているだけで、顧客に対して等しく「強引な無理強い」をしていることに変わりはない」

事に気づかされました。

ひとつ前の文章で申せば「Pull 戦略とは引き寄せられて」まではまだ許せるとしても、そのあとの「顧客側からこちらにやってくるように「なる」戦略」の内の「なる」が実は「なる」等では全くなく「やってくるように「仕向ける」「陥れる」戦略」でしかなく、質と姿勢において Push 戦略と何ら変わりはないどころか、下手をすると更に巧妙狡猾な「より悪辣な

戦略手法」であるような気がしてまいりました。

「Push と Pull の語が持つ一般的な対比関係をうまく使って騙くらかしているだけのマーケティング理論なのではなかろうか？」

と思い出しました。

様々な不可抗力はあったものの結果として売り上げが伸びない話がある方にし、どうやったら売り上げが伸びるかの相談をしたところ、そのある方から以下の様なアドバイスを頂戴致しました。

曰く

「Fan (ファン) を作るような方向に進んではどうでしょうか。ファンになって下さればこちらから無理強いをしなくても、向こうからお金を払ってでもやってくるようになります。中には追っかけても来る人がいるかもしれませんが。そのためには無駄だと思う時もあるかもしれませんが、飽かずに質のいいものを提供し続けることです。確かに時間はかかるでしょう。かかりますが、それを流されることなく淡々とやっていくのがいいかもしれません。飽かずにブレることなく続けることです。それが迂遠なように見えて一番の近道かもしれませんよ」

かなり驚きました。

そういう考え方があったのかぁ、と。

と言ったわけでそのアドバイス以降、当店は、Push 戦略は当然ながら Pull 戦略をとることも一切やめました。

しかし儲かりません。出口も全く見えてきません。インフレ懸念でその出口が増々見えなくなりつつある昨今。

正念場の様な気がしております。

No need Push & Pull strategy,

but need Fan making strategy on marketing field.

We already understand, but it looks like very far!!

“n” turning to “r” now, means from Fan to Far now!!

Big Sigh!!

OMG!!

(結語)

清水の舞台から「エイやっ」と



「●まず、日本語の特殊性を心から理解することが
英語を話せるようになる第一歩の様な気がして
おります (何の事はない「灯台下暗し」)

●英語が日本語同様、微に入り際にわたって厳密に
一対一の適格適語な訳語で組立てられていると
無意識に思い込んでいるから英語がわからない様な」

と「辞書を置かない英語教室「前座の英語」」のポスターに本日紹介文を書いておりまして
ふと思いついたことがございました。

それは

外国人が日本語習うのは「簡単から難しいへ向かうので大変だろう。しかし日本人が英語を
学ぶのは極めて難しい日本語から極めてラフな英語に向かうので楽ちんだろうに。なのに
「わからない。喋れない」といっている。

何故か？

それは英語学習においては踵を返して反対に簡単な方に歩き出せばいいのに、踵を返さず
に更に難しい方に足を踏み出す(何の疑いもなく視界がそちらの方に向いてしまう)からだ
ろう。進む方向、目をむける方向がまるで反対。これじゃ無理というものだ。

いくら進んでも、いくら探してもたどり着くわけもないし、見つかる訳もない。

だって反対に進んでいるんだから。逆に目を向けているんだから。

と。

これは思い付きで本書発売の直前に書きましたので、詳しくは後日、別稿でしたためてみようかと思っております。

英語学習においては直上所述のこの手の「エイやっ」が必要に思われます。

われわれ日本人はともすると「発言に対して」縦横斜め全てに矛盾なきよう整合性を確認し、しかもその発言が 100%大丈夫だと保証されない限り言葉を発しないようなところがありますが、それではいつまでたっても英会話は無理だろうなぁと思っております。

早いところさっさと「清水の舞台からエイやっと飛び降りなされた方がいい」と思います。

(著者プロフィール)

うときゅう いっき

本名 宇都宮一貴 (うつのみや かずたか)

一九五三年東京生まれ。早稲田大学第一文学部ロシア文学科を二回留年の後、卒業。大手電機メーカー商品企画部に二十年間勤務。同子会社経理部等に十六年間勤務。四十歳から五十二歳まで十二年間重度うつ病を罹患。左遷、リストラ、降格、離婚、家族崩壊の後、生還。定年退職後、嘱託社員契約を辞して株式会社うとQを設立。趣味は観察すること、考えること、書くこと、カメラの四つのk。著者名は苗字、宇都宮一貴の音読みで、中学校時代の仇名に由来する。

宇宙の「う」

東京都の「と」

宮殿の「きゅう」

数字の「いち」を詰まり音便で「いっ」

貴族の「き」

で、うときゅういっき となります。漢字にするとかなり御大層な名前に見えますので、敢えて音読みひらがな表記にしております。

ホームページ：エラー! ハイパーリンクの参照に誤りがあります。 utokyu.co.jp

(出版情報)

著 者 うときゅう いっき

発行人 宇都宮一貴

発行所：株式会社うとQ

〒二一五 - 〇〇一八

神奈川県川崎市麻生区王禅寺東5丁目34番7号

電話：〇四四 - 九八九 - 一六九八

発 売 株式会社 うとQ

編 輯 ナレッジフォレスト (大竹鉄哉)

カバーデザイン&DTP 製作 ナレッジフォレスト (大竹鉄哉)

©Kazutaka Utsunomiya uploaded in japan 2020

発行日：二〇二二年七月十日 初版発行

本書の一部または全部について、著作権上、著作権者の承認を得ずに、無断で複写、複製することは禁じられています。

(その他著書)

- 「人生終わったなと思った時に読む本」(二〇一五年刊 ソフトカバー在庫僅少)
- 「人生終わったな」と思う間もなくトンネルの闇を抜けて広野原(二〇二〇年刊 amazon kindle)
- 「コロナ禍 同時進行執筆 ナマステ別館堂主人「ニューノーマル探索サバイバル日記」二〇二〇年壱月の巻～十二月の巻」(二〇二〇年刊 amazon kindle)
- 「コロナ禍 同時進行執筆 ナマステ別館堂主人「二年目の ニューノーマル探索サバイバル日記」二〇二一年一月の巻～十月 最終巻」(二〇二一年刊 amazon kindle)
- コロナ禍 初年度 カリー屋ナマステ別館堂主人「ニューノーマル探索サバイバル日記」(二〇二一年刊 amazon kindle)
- (初本) カリー屋ナマステ別館堂主人 掌編小説集「冬のひまわり」(二〇二〇年刊 amazon kindle)
- (改訂本) カリー屋ナマステ別館堂主人 掌編小説集「冬のひまわり」(二〇二〇年刊 amazon kindle)
- コロナ禍カリー屋ナマステ別館堂主人 掌編小説集「子、親を選べず」三部作(二〇二一年刊 amazon kindle)
- コロナ禍カリー屋ナマステ別館堂主人 掌編小説集(合本)「子、親を選べず」新四部作(二〇二一年刊 amazon kindle)
- コロナ禍 カリー屋ナマステ別館堂主人「ニューノーマル探索サバイバル日記」二〇二一年 上半期(合本)(二〇二一年刊 amazon kindle)
- コロナ禍 カリー屋ナマステ別館堂主人「ニューノーマル探索サバイバル日記」二〇二一年 度(合本)(二〇二一年刊 amazon kindle)
- ネパールカリー屋「ナマステ」別館堂&英語教室「すすき野留学」主人
辞書を置かない考える英語教室「前座の英語」Pre & Prep. English 第1集～第9集(二〇二二年刊 amazon kindle)
- 線路は続くよ、何処までも 野を越え山越え谷越えて その一、その二(二〇二一年刊 amazon kindle)
- 線路は続くよ、何処までも 野を越え山越え谷越えて 合本(二〇二一年刊 amazon kindle)
- 短編小説「明暗明暗」(二〇二一年刊 amazon kindle)
- うつ病ドロンパツ読本(二〇二一年刊 amazon kindle)

- （改訂原本）声あげ Is it true?
（二〇二二年刊 amazon kindle）
- 続 声あげ Is it true?
（二〇二二年刊 amazon kindle）
- 「辞書を置かない考える英語教室 教本」It`s a English. Our side language English
（二〇二二年刊 amazon kindle）
- Easily understandable & speakable Japanese language lesson. It`s a Japanese. User side language Japanese（二〇二二年刊 amazon kindle）

尚、掲載写真は全て google 画像サイトの著作権フリーのものをダウンロードして使用しております。当社には著作権、版權は全くない事を明記させて戴きます。